



2020 年度 環境経営レポート

対象期間：2020 年(令和 2 年) 4 月～2021 年(令和 3 年) 3 月

2021 年(令和 3 年) 6 月 11 日発行

同年 6 月 23 日改訂

株式会社アキュレイト Accurate Inc.

埼玉県越谷市下間久里 92-1

1. 環境経営方針

株式会社アキュレイト 環境経営方針

【基本方針】

株式会社アキュレイトは全事業所の全活動（機械部品の供給に関わる設計製造・技術提案・出荷梱包など）を対象に環境経営システムを構築、運営管理し、低炭素・循環型社会の発展に寄与すべく積極的に責任と役割を果たしていきます。従業員の健康かつ安全な生活の実現を図り、その地域社会の継続的な発展に貢献いたします。

【行動指針】

1. 事業活動を行うにあたり、地域社会および自然生態系に配慮し、環境保全に努めます。
2. 環境関連の法規制を遵守するとともに、遵守状況を定期的に確認・評価します。
3. 環境負荷削減の目標を定め、継続的な改善活動を行います。
特に下記を重点項目として取り組みます。
 - a).電力および化石燃料の使用量削減
 - b).廃棄物の削減、リサイクル化の推進
 - c).上記 a),b)を記録、評価し改善活動に生かす
4. 地球環境に配慮した設計開発と製品製造および技術提案を行います。
5. 取り扱い製品に含有される化学物質を管理し適用基準を定め、環境負荷低減を図ります。
6. 本方針を全従業員が理解し目標達成に向けて活動出来るよう周知いたします。
7. これらの活動は環境マネジメントシステム（以下 EMS）「エコアクション21」により策定・評価し専門機関の定期審査を受けます。EMS への取り組みの教育・訓練を行います。
8. 活動報告を月例会議で報告するとともに社内ポータルに掲示。全従業員と情報を共有、また意見の交換・吸い上げを行います。
9. 活動レポートはホームページに掲載、社外に広く自由に閲覧出来る事とします。

制定 2006年(平成18年)7月1日

改定 2020年(令和2年)4月1日

株式会社アキュレイト
代表取締役 土屋 一延

2. 事業活動の概要

1) 本社

〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里 92-1
代表取締役 土屋一延

2) 事業所

ロジスティクスセンター

〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里 92-1

東京カスタマーセンター（東京 CC）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 4-7-5

名古屋カスタマーセンター（名古屋 CC）

〒453-0814 名古屋市中村区熊野町 1-9-1

京都カスタマーセンター（京都 CC）

〒612-8419 京都市伏見区竹田北三ツ杭町 20

* CC（カスタマーセンターの略）

* 認証範囲は全社です



3) 環境管理責任者

責任者名 品質保証部 阿部 敏

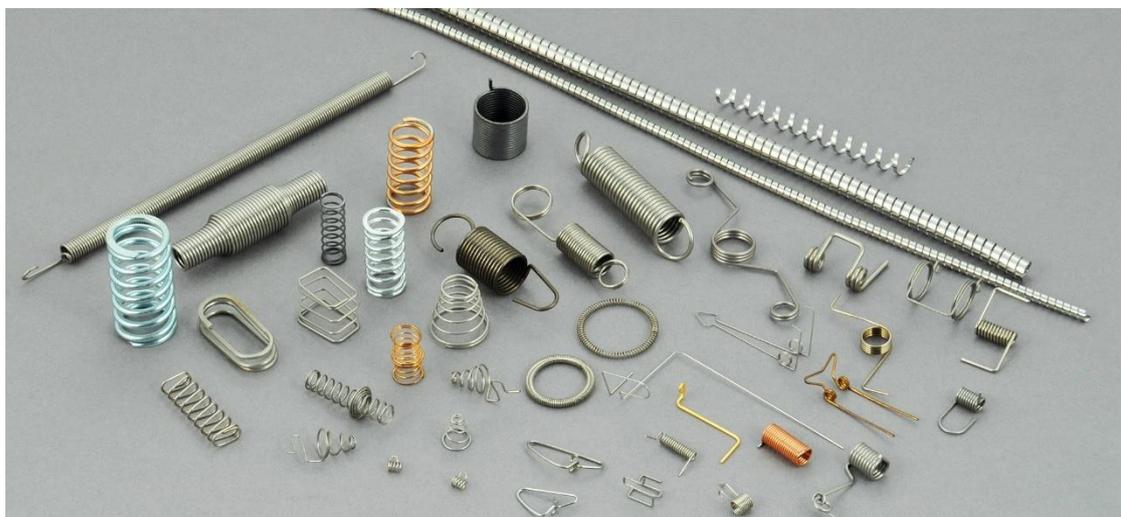
連絡先 TEL : 048-973-1511 e-mail : HINSHO@accurate.jp

4) 事業内容

規格ばね及び機械要素部品のファブレス製造販売。

各種精密スプリングの設計、試作品および量産品のファブレス製造販売。

センサーの販売



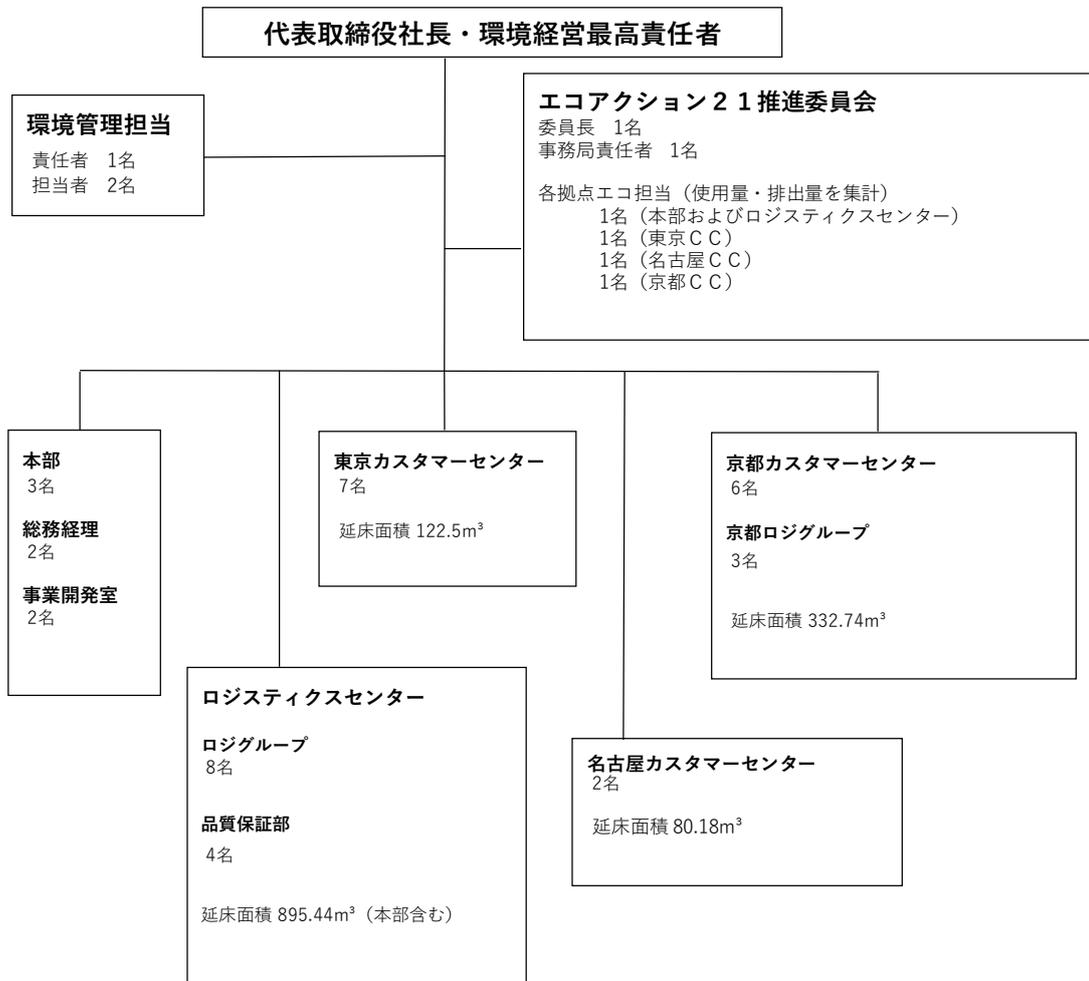
5) 事業規模 (年度：4月～3月)

年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
従業員数(名)	37	34	37	37	37	37
延床面積(m ²)	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86

*従業員数(社長・役員・派遣社員含む)および延床面積は各年度4月1日時点のもの。

6) 環境経営体系図

全37名 2020年7月1日現在



役割・責任・権限

代表者(代表取締役社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・経営における課題とチャンスを明確にする ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、情報等経営資源を準備 ・環境管理担当者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境目標・環境活動計画を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理担当	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画の作成・確認 ・環境活動計画の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの作成、公開(地域事務局への送付とホームページへの掲載) ・従業員及び協力会(協力工場を対象にした会議)に対する環境教育・訓練の実施 ・各カスタマーセンターに必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・各カスタマーセンターの想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・環境活動実績の確認・評価
エコアクション21 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理担当責任者の補佐 ・環境活動の実績集計(使用量・排出量) ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動計画の審議
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・各カスタマーセンターにおける環境活動計画の周知 ・各カスタマーセンターに関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・各カスタマーセンターごとに地震・火災を想定した訓練を実施 ・各カスタマーセンターの問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営目標とその実績

		2018年度	2019年度	2020年度	2020年度	2021年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値
温室効果ガス (kg-CO ₂)	排出量	46,028.	46,090.	45,629.1	53,515.	57,211.
	前年比	-4.8%	+0.1%	-1.0%		
電力使用量 (kWh)		81,159.	82,513.	81,687.87	100,541.	108,045.
	前年比	-0.1%	+1.7%	-1.0%		
ガソリン給油量 (ℓ)		1,717.67	1,714.89	1,663.44	827.94	815.27
	前年比	-32.2%	-0.2%	-3.0%		
廃棄物総排出量 (kg)		2,416.14	1,855.3	1,855.	2,402.65	2,055.
	前年比	+22.6%	-23.2%	+0.0%		+10.8%
リサイクル量 (kg)		3,864.85	1,922.55	5,000.	4,859.65	4,000.
	前年比	+8.6%	-50.3%	+260.1%		-20.0%
水道使用量 (m ³)		440.	449.	444.5	484.	440.
	前年比	+17.8%	+2.0%	-1.0%		-1.0%

2021 年度の目標変更

(a) 温室効果ガス排出量 前年度実績の+7%。

2020 年度実績値から、本社ロジスティクスセンター・東京 CC は各-3%、名古屋 CC・京都 CC は各-1%を目標とする。これらを計算すると全社で-2.4%となる(2020 年度実績値 53,515kg-CO₂→2021 年度目標 52,211kg-CO₂)。

また、本社ロジスティクスセンターで自動化機器の設置予定が有り、こちらの分として別途 5,000kg-CO₂(10,000kWh)を計上し、2021 年度 57,211kg-CO₂ とする。

4. 主要な環境経営計画

1) 温室効果ガス排出量の削減

(a) 電力使用量の削減

- ・ 昼休みの消灯及び定時以降は同室内で不在のエリアを消灯
- ・ 間引き消灯。一部照明の蛍光灯・電球を取り外し
- ・ LED に入れ替え。本社・ロジスティクスセンターは 2013 年に設置済み
- ・ パソコンの省電力設定
- ・ 「クールビズ」「ウォームビズ」の推奨
- ・ 冷暖房の温度設定は夏期 28°C、冬期 20°Cを目標とする。サーキュレーターを活用し、効率を高める。

(b) ガソリン給油量の削減

- ・ 使用状況の把握と共有
社用車日報の義務づけ。走行距離と給油の有無・量を記録。
- ・ 公共交通機関使用を推進
- ・ アイドリングストップ、省エネ運転の奨励
- ・ オンライン商談の推進

(c) その他化石燃料の削減

- ・ ガス、灯油の使用量の把握と共有。

2) リサイクルの推進

(a) コピー用紙のリサイクル

(b) リサイクル資源の分別廃棄

3) 省資源の推進

- (a) 水道使用量の把握と共有
- (b) 通い箱の推奨

4) 有害化学物質の管理

- (a) グリーン調達の実施
 - ・ SDS および chemSHERPA フォーマットによる調達品の化学物質含有量の把握。
 - ・ 自社製品に RoHS 適合マーク標記
 - ・ 事務用品、消耗品などグリーン製品採用の奨励
- (b) 有害化学物質の調査
 - ・ ファブレス製造先（協力会社）の調達品と使用状況の把握。使用禁止物質、制限物質が守られているか確認。
 - ・ 顧客から化学物質含有調査依頼への調査回答。

5. 環境経営活動の取り組み結果の評価

1) 目標に対する結果

	単位	2020年度				評価
		目標	実績	目標対比	前年実績対比	
温室効果ガス 排出量	kg-CO ₂	45,629.1	53,515.	+17.3%	+16.1%	×
エネルギー資源使用量						
電力使用量	kWh	81,687.87	100,541.	+23.1%	+21.8%	×
ガス使用量	m ³	—	142.	—	+105.8%	—
灯油購入量	ℓ	—	108.	—	-57.1%	—
ガソリン給油量	ℓ	1,663.44	827.94	-50.2%	-51.7%	○
廃棄物総排出量	kg	1,855.	2,402.65	+29.5%	+29.5%	×
リサイクル量	kg	5,000.	4,859.65	-2.8%	+152.8%	△
水道使用量	m ³	444.5	484.	+8.9%	+7.8%	×

* ガスと灯油は使用頻度が低く目標値を設定していない。

* 評価基準 以下の通りとした。

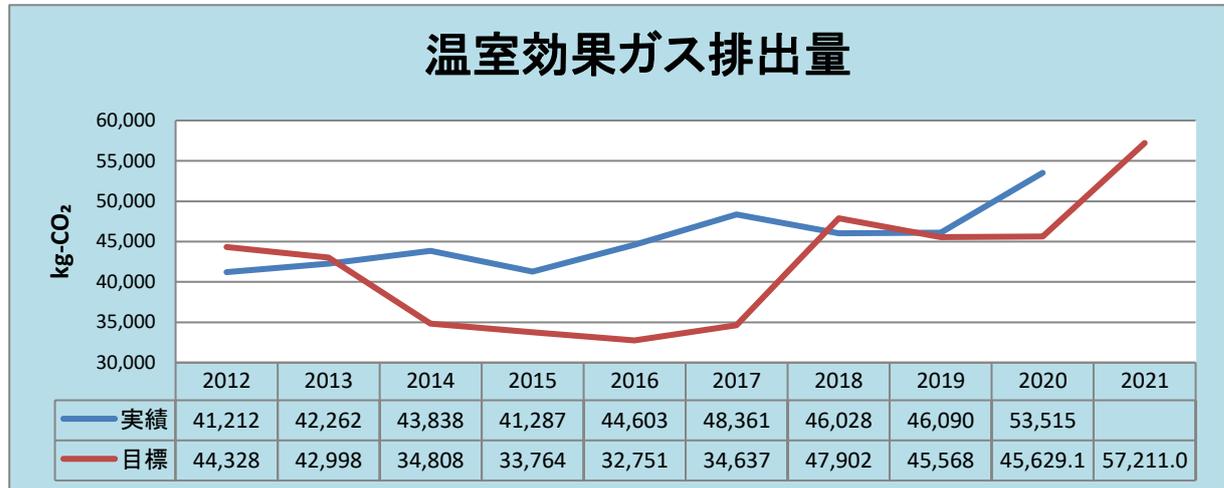
○：目標を達成した

△：未達成の割合が5%未満の場合。もしくは努力の範囲を超える事態が起き未達となった場合。

×：未達成の割合が5%以上の場合

2) 温室効果ガス排出量の削減

目標対比 +17.3% 前年対比 +16.1%



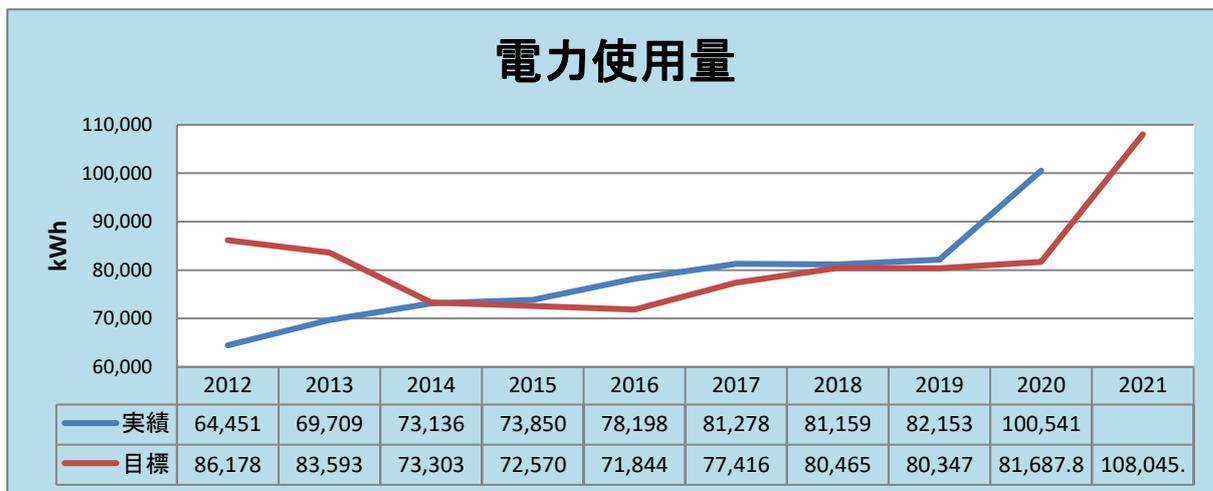
* 現在、電力の排出係数は以下の値を適用している。この係数は 2018 年度より適用。

東京電力 0.5 kg-CO₂/kWh

中部電力 0.485 kg-CO₂/kWh

関西電力 0.509 kg-CO₂/kWh

(a) 電力使用量の削減 目標対比+23.1% 前年対比+21.8%

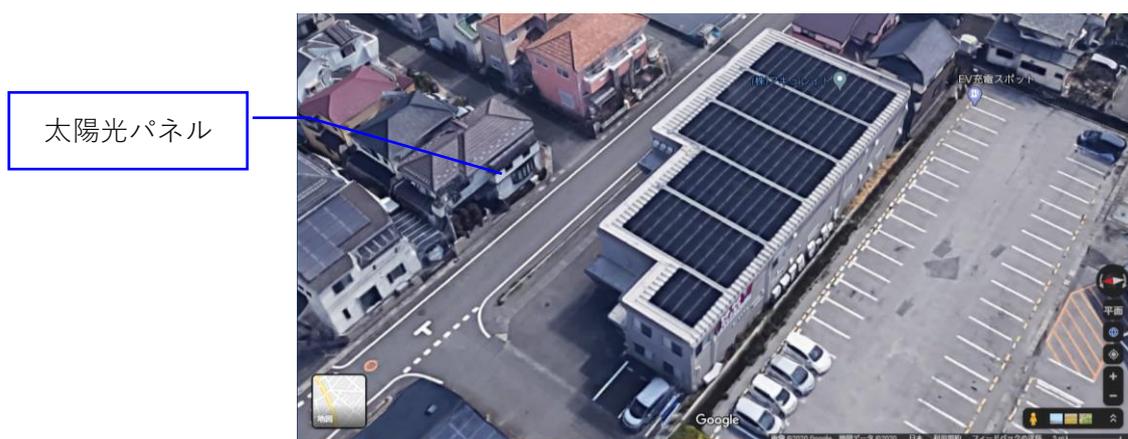


・事業の拡大に伴い使用電力も増加傾向にある。一方で売上高 原単位による温室効果ガスの排出量は削減出来ている(2019 年度～は増加しているが)。今後も業務の効率化と共に無駄を省き、削減に努めていく。

・2013 年 10 月 本部・ロジスティクスセンターの移転に伴い、建物の屋上に太陽光パネルを設置。発電を行い電力会社へ売電している。この発電量は、上記の温室効果ガス排出量及び電力使用量には算入していない。次項で発電量の推移を記す。

・2020 年度は、2019 年度比 20%以上使用電力が増加した。新型コロナウイルス対策として、換気をしながらエアコンを使用したのが最大要因である。

・当社の電気使用量は、CO2 排出量の大部分を占めている。(2020 年度は 95.3%、他年度は 72.5%～89.7%)



太陽光パネル

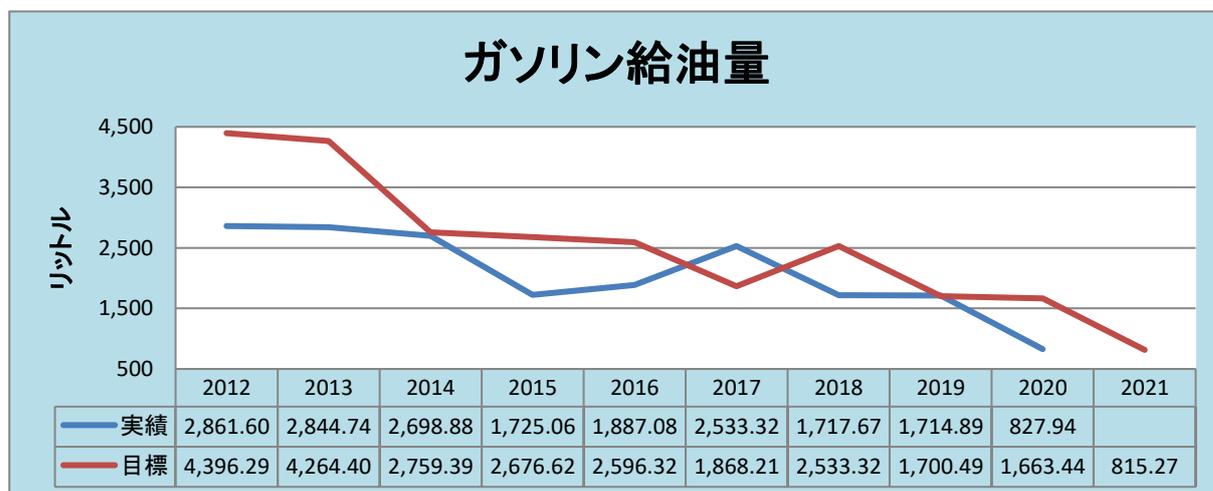
*google map より引用

(b) 太陽光発電 発電量の推移



- ・ 2013年10月から発電開始
- ・ 2016年7～10月と2019年7～10月にパワーコンディショナーに異常有り、この二つの期間で発電量が低下した。
- ・ 現在のところ発電設備に顕著な経年劣化は見受けられない。

(c) ガソリン給油量の削減 目標対比-50.2% 前年対比-51.7%



- ・ 営業車全車両、低排出ガス車に入れ替え済み。所有台数は4台。
 本社ロジスティクスセンター 1台
 名古屋CC 1台
 京都CC 2台
 東京CC 無し
- ・ 遠方の、特に高速道路での長距離移動を必要とする場合は、鉄道+レンタカーの移動を奨励している。

- ・ 2020 年度は、集計を開始して以来最少の実績となった。新型コロナウイルスの影響により、外出自粛やオンラインミーティングが増加したためと思われる。
- ・ 当社のガソリン給油量が、CO2 排出量に占める割合は小さい。(2020 年度は 3.6%、他年度は 8.6%~24.9%)

(d) ガス使用量



- ・ 2013 年の本社移転後は、京都 C C のみの使用となっている。
- ・ 当社の使用量が、CO2 排出量に占める割合は小さい。(2020 年度は 0.6%、他年度は 0.2%~1.3%)

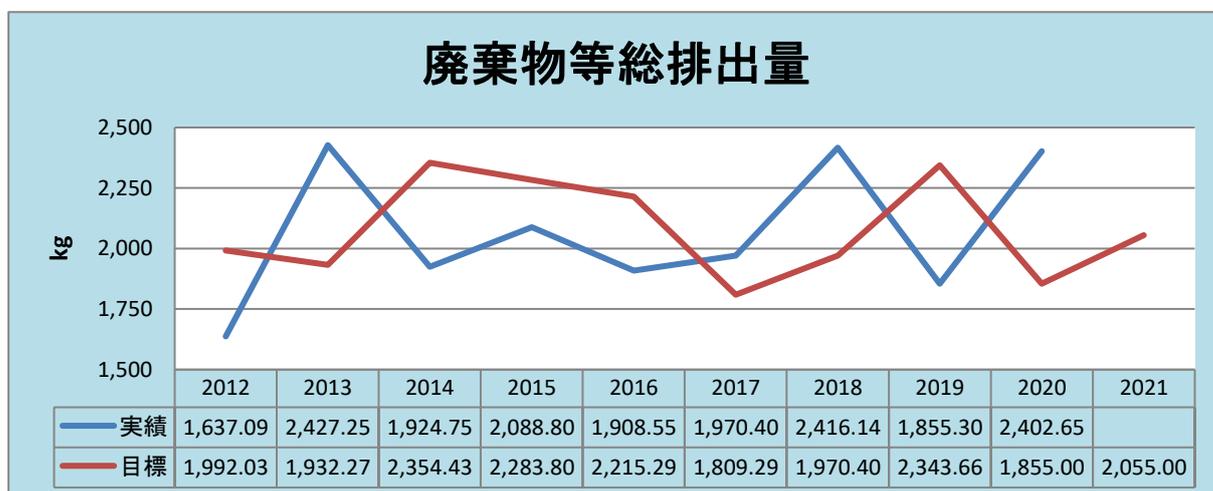
(e) 灯油購入量



- ・ 暖房器具燃料として、本社ロジスティクスセンターおよび京都 CC の倉庫内で使用。
- ・ 当社の灯油購入量が、CO2 排出量に占める割合は小さい。(2020 年度は 0.5%、他年度は 0.7%~5.9%)

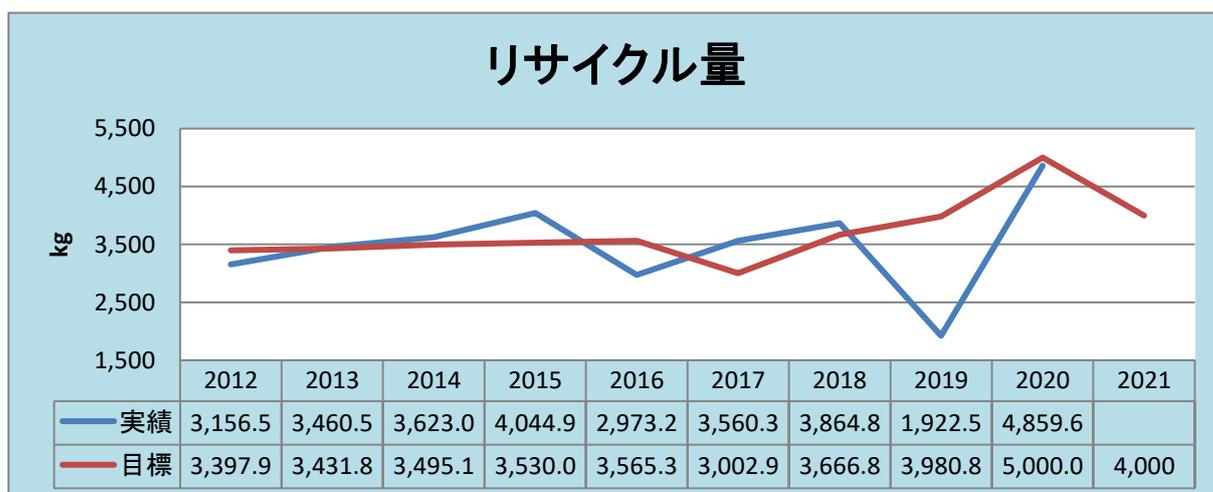
3) 廃棄物など排出量の削減

(a) 廃棄物の削減 目標対比+29.5% 前年対比+29.5%



- ・紙類は新聞紙・段ボール・コピー用紙に分別しリサイクルする事で廃棄物を削減している。
- ・2013年度の増加は、本社機能およびロジスティクスセンター移転に伴い廃棄物が増加したことによる。
- ・2018年度はOA機器の入れ替えなどにより増加した。
- ・2019年度はコロナウイルス対応により年度末の廃棄を見合わせたため量が減少した。

(b) リサイクルの推進 目標対比-2.8% 前年対比+152.8%



- ・機密文書類は溶解処理業者へ引き渡しリサイクルしている。
- ・2019年度はコロナウイルス対応により年度末の廃棄を見合わせたため量が減少した。

・2020年度は、2019年度の廃棄を見合わせていた分、コピー用紙の大量リサイクル(2,130kg)が有り、増加した。

4) その他の省資源の推進

当社は大規模な設備や重機等を有しておらず、他の資源としては水の使用量を集計管理し削減に取り組んでいる。

(a) 水資源使用量の削減 目標対比+8.9% 前年対比+7.8%



・名古屋 CC は水道料金が建物の賃貸借契約に含まれており、使用量の把握が出来かねる為、集計から除外している。

5) 有害化学物質の管理

(a) グリーン調達について

当社規格品（カタログ掲載品）は全点 RoHS 指令に対応している。

RoHS10 物質は原則として含有せず、含有の場合でも適用除外規定に該当する事を確認している。

各協力会社からの調達品は、安全データシート SDS および chemSHERPA フォーマットにより含有規制有害物質の管理を行っている。

顧客からの化学物質調査依頼に対しては、品質保証部が対応を担っている。

6) その他取り組み

(a) 屋外の清掃

周囲の景観美化と、草の侵入によるエアコン室外機の故障防止の為、定期的実施している。(写真は本社ロジスティクスセンターのもの)

実施前



実施後 (2021年3月27日撮影)

上写真の矢印の木を伐採した(次ページの写真)





(b) クールビス、ポロシャツの支給

季節限定のユニフォームとして、ポロシャツを支給し軽装を推奨している。



6. 環境関連法規への違反、訴訟の有無等

環境関連法規への遵守状況は、「主な環境関連法規一覧」にて管理し、毎月開催されるコンプライアンス会議にてチェックを行っています。これまで創業以来過去 35 年間、環境関連法規への違反あるいは訴訟等は有りません。また、関係当局より違反等の指摘は有りません。

当社はオフィス機能が中心で、火災や地震等自然災害以外の緊急事態が想定されません。

「問題点の是正・予防処置の結果」については、2020 年度は問題点が発生しませんでした。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示 2021年6月11日ヒアリング

当社では、温室効果ガス排出量に占める割合の大きい電気使用量の削減を重点項目として継続して取り組んできたが、2020年度はコロナウイルス感染対策として換気を励行した為、空調効率が落ち電力消費量が増えた。その結果 2020年度のCO₂排出量は、前年対比+16.1%となった。

2021年度も同様の事態が想定されるが、簡易的なパーテーションを設置するなど空調の改善を図るよう指示しました。

またコロナ終息後、通常業務に戻った際、新たな無理無駄が発生していないか見直しを行い業務の効率化と省エネを図ってまいります。